



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：「エルサレムの支援者団」が西方砂漠で米国人石油技師を殺害と発表

12月1日、「エルサレムの支援者団」はイスラーム過激派掲示板サイト及びツイッター上で、エジプトの西方砂漠で石油技師として働く米国籍のウィリアム・ヘンダーソン氏を殺害したと発表した。同声明には、同人を西方砂漠で殺害した旨と、同人のパスポートと社員証（Apache Egypt Companiesと記載）の画像だけが掲載されており、いかなる目的で殺害したかは書かれておらず、また通常声明で掲載されることが多い殺害後の遺体の画像はなかった。

西方砂漠はナイル川の西側からリビア国境に向けて広がる砂漠である。カッターフィー体制崩壊後のリビア国内の混乱により、近年、リビア・エジプト間国境で武器やヒト（過激派戦闘員を含む）の非合法的取引が横行しており、エジプト国内で最も治安が悪い地域のひとつである。

「エルサレムの支援者団」は、2013年7月のクーデタ以降、エジプト軍及び警察を狙った攻撃を複数件起こしており、最近では公式に「イスラーム国」への忠誠を表明し、「イスラーム国」の「州」のひとつとして「シナイ州」を名乗っている。主な活動場所はシナイ半島北部やスエズ運河付近の町だが、2013年にはカイロで数十名の死傷者を出す爆破事件を起こした。2014年7月には、西方砂漠のファラーフラ・オアシス近くの検問所で兵士を殺害している。

#### 評価

今回の声明には殺害の目的が記されておらず、殺害後の遺体の画像も掲載されていない点が、「エルサレムの支援者団」がこれまでに発出してきた犯行声明と異なる。そのため、同組織が本当にヘンダーソン氏を殺害したかどうかは、現在のところ留保を付けるべきであろう。また「エルサレムの支援者団」の最大の攻撃標的はエジプト軍と警察であり、外国人の攻撃をそれほど重視していない。外国人が標的となったのは、2014年2月の南シナイ県ターバーで韓国人観光客の乗ったバスが攻撃された事件のみである。もしヘンダーソン氏殺害が真実であれば、より詳細な犯行声明や動画が発表されてもおかしくはない。

しかし、西方砂漠が当局のコントロールが行き届かない地域であることには変わりなく、エジプト人・外国人ともに何らかの事件に巻き込まれる可能性が極めて高いことに留意しなくてはならない。

（イスラーム過激派モニター班）